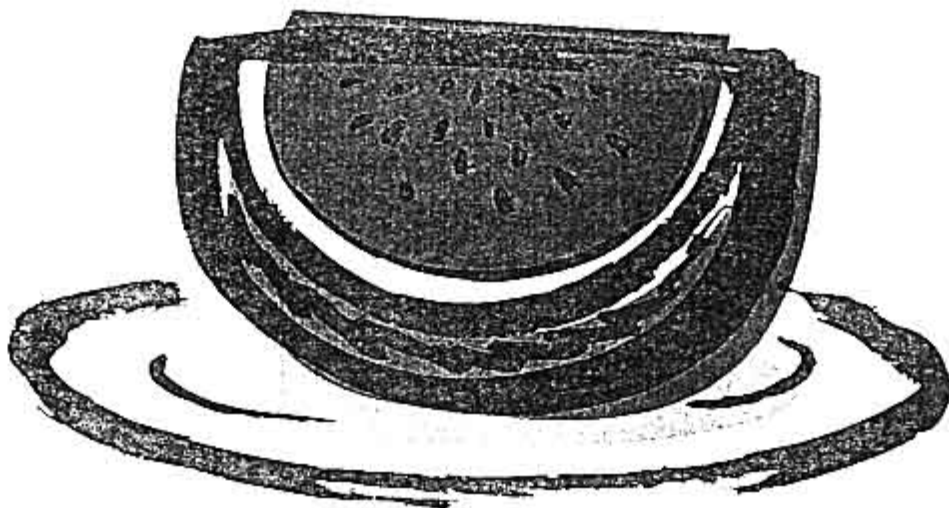


# ♪ シニア便り ♪



第 13 号 (2009年7月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団 事務局

編集 『シニア便り』編集部

## 新入団員が吹奏楽に

【私の目標】

トランペット 鈴木 隆起  
皆さん、こんにちは。  
トランペットで入団した鈴木です。

入団してから早くも8ヶ月ほどが経過しようとしています。毎月の飲み会や練習の合間のコーヒータム・等々、合奏以外でもメンバーの皆さんとお付き合いができ、入団して本当に良かったと思っています。

仕事の関係で、吹奏楽には30年ほどのブランクがありますが、昔の感覚が少しずつ蘇ってきている最中です。

ただ、楽譜を見るのがつらくなっていますし、2度ほど吹いたらほとんど暗譜できた昔に比べ、今は、何度も吹かないと覚えられなくなっていました。

私は新入団員ですが、少なくともトランペット・バートの皆さんの中では、最年長でしょう。それゆえ、友人や親戚から、「なぜ今頃になって再び吹奏楽を始めたか」と聞かれることがあります。

吹奏楽を中断していた30年の間にもいろいろな音楽活動を行ってきましたが、私の音楽の原点は、何と言っても、高校1年に吹奏楽部に入部して一番最初に楽器を持ってボンと音を出して合奏した時のあの感動です。

あの感動を味わい続けたいので再び吹

奏楽を始めた・・・というのが最大の理由です。(ちなみに、私の最初の楽器は「小バス」(今のユーフォニウム)でした。)

良い音楽活動の中では、合唱やコンポバンドでの演奏もしていましたが、同じような合奏シーンは幾つも経験してきているはずですが、やはり吹奏楽でのブラスの響きは格別です。

今年で還暦になる身には、ラッパの演奏はシンドイですが、幸い、歯の方は丈夫ですので、(自分のHPにも書いていますが)「老けて吹けなくなるまで」吹く・・・というのが、今現在の目標です。

東京での単身生活を終えようとする昨年の暮に、この目標を実現できそうな団体に入団したいと思い、探しましたがなかなか見つからず、偶然、シニアの存在が分かった次第です。

案の定、シニアには、私のような目標を持つていらつしやる(と思われる)方が何人も見受けられますので、とても安心して活動できます。

歯がダメになっても吹き続けたラッパ吹きもおりますし、もっとすごい人物も居たようですが、とりあえず、あせらず楽しんでいきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 【私と吹奏楽】

ユーフォニウム 八木田 道敏  
私の故郷は、道北の美深町です。

小学生の時、体育館で自衛隊音楽隊の生演奏を聞く機会があり、その時の感激は大きく「高校に入ったら吹奏楽でトランペットを・・・」と心に誓いました。

昭和37年、無事高校に進学しましたが、美深高校に吹奏楽部はありませんでした。

しかし、幼馴染で音楽好きなK先輩が、物置で錆付いてほこりを被っていた12個の楽器を発見、何とか吹奏楽部を結成することができ、私は念願のトランペットを、K先輩はバリトンを受持ちました。

音楽の先生は知らん顔だったので、最初は皆で音の出し方も分からないまま、只フー吹いていたように思います。

その時、旭川南高で吹奏楽をやっていたOさん(親の転勤で美深で浪人中)が、飛入りで指導してくれたのです。ロングトーンをはじめ基本的なことは全てOさんから教わりました。

Oさんが受験で忙しくなってから、K先輩を中心に活動、校内での演奏会や近隣の祭とかイベント等に参加しましたが、コンクール等に出たことはありません。

従って、練習が辛かったという記憶はなく、出来る範囲で楽しんでいたように思います。

また、地元農協主催の歌謡大会にK先

輩と私が応援出演したこともありましたが、卒業してからは、吹奏楽のレコードを聞くくらいでしたが、「2年になつたら、吹奏楽部に入つて、今度はユーフォニウムをやりたいな」と思っていました。(K先輩の影響?)。

K先輩は新設の横浜ドリムランド、吹奏楽団に見事な資格して音楽の道に進みましたが、先日(2010年)で検索したところ、横浜市民吹奏楽団の演奏会の指揮者の中に同じ名前を発見(多分K先輩)、大感激です。

一方、私は幸運にも当団に入団できましたが、足手まといになつて皆さんに迷惑をおかけしております。「石の上にも3年」と思い日夜(?)練習を重ねておりますが、今暫くのご辛抱をお願いするばかりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 【出逢い】

バリトンサックス 平野 明日香  
私は小さな頃から音楽が大好きで、中学生になると、当たり前のように吹奏楽部に入部しました。

とはいえ、いろいろな楽器を試奏したものの、唯一音を出せたのがバリトンサックスでした。これがサックスとの運命の出会いです。

この出会いを切っ掛けに、音楽は私に

たくさん素晴らしい宝物を与えてくれました。それは、曲のイメージに合わせて何かを表現しようとする感情、ひとつの何かを達成したときの喜び、一緒に頑張る仲間、どれもかけがえのない、私の青春です。

今は、シニア吹奏楽団と出会い、あの頃の青春が甦ったように楽しく過ごしています。

「これからは、この出会いを大切に、日々邁進していきたいと思っています。」

みなさん、これからも末永くよろしくお祈りします。

### 『十五周年記念演奏を終わって』

常任指揮者 中村 暁生

昨年十月五日、プログラムの全ての曲の演奏が終わって一旦ステージから下がった私の耳に届いてきたのは、アンコールを求める心のこもった温かくて大きな拍手でした。

それを聞きながら再びステージに足を運んだとき、同じこの「かである」の一室で僅か七人のメンバーで最初の練習をしたときのこと鮮明に蘇ってきました。

「あれから十五年経ったんだ」長かったようでもあり、一瞬のようにも思える時の積み重ねを感じながら「木陰の散歩道」と「時計台の鐘」の棒を振り皆さんと一

緒に歌いました。

高輪化社会を反映して吹奏楽界でも去年の八月、「第一回生涯学習吹奏楽の祭典」が浜松市で開催されて全国から十二の団体が参加し、今後ますます盛んになるであろうとの報がありました。それにつけても十五年前に今日があることを予見して、シニア吹奏楽団の設立を提唱された林団長の慧眼に頭が下がります。と同時にその趣旨に賛同して仲間に加わり、これまで団の発展のために尽くしてくださった団員の皆さんや、支えてくださった多くの方々にあらためて心からお礼申し上げます。

演奏会の成果については、団員の皆さんとお客様からのアンケートに詳しく載っていますが、温かい励まし言葉の言葉にもに感ずる詳細も数多く見られます。

十五周年はそれにふさわしい企画と演出で成功裡に終わりましたが、これからはその成果を基礎にして、シニアにふさわしいテンポで皆様と共に一歩一歩進んで行きたいと思っております。皆様の一層のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

Fandante, mpj

渡辺 順三

「前谷さんが倒れたらしい。」中村先生からの第一報は、1月28日午前中でし

た。その日の夕方、恐る恐る前谷さんのご自宅に電話を入れました。「今朝、亡くなりました」……電話口で声を失いました。

シニア創立15周年記念誌を飾る、設立総会の写真には、高々と棒を掲げる前谷さんの若々しい姿があります。前谷さんは、設立準備の頃から常に団長を支えて来ましたが、数年前、体調を崩してから、姿の見えない日々が続いておりましたが、ここ2、3年は足取りもすっかりと、声にも力強さが戻って来ておりました。役員会や、呑み会への参加も増え、時にはバストラムをたたく姿も見られ、一緒にステージに立つ日も近いと思っていた矢先のことでした。

前谷さんが、存在の大きさを発揮するのは、役員会でした。議論が途切れたとき、紛糾したときが、前谷さんの出番です。Andante, mp. いつもの冷静沈着な話し振りに全員が聞き入り、改めて議論に戻ることも度々でした。もしその場に団長がいたら……それが前谷さんでした。ことに非力な事務局にとってはありがたい存在で、助けていただいたことは、数知れません。

複数の弟辞が続く様子は、前谷さんの生前をうかがい知る荘厳なものでした。水く役員を務めていた札幌信用金庫を退職後、私財を投じて前谷塾を開設しました。前谷塾は、地域に根付いた若い銀行マンを育成するため、塾生の棒を全道に

広げ、全国から名の通った講師を呼ぶと言った本格的なもので、自分を育ててくれた業界にすべてを返したいと、情熱を注いでおられました。倒れたのは、その前谷塾の、新年初会合へと向かう途中だったそうです。

つくづく思います。シニアは奇跡的な団体なのだ。これだけの老若男女が、同じ時、同じ所で、同じ楽しみを基に集うのは、とても偶然とは思えません。その楽しみも、多少の自覚性と努力とを必要とするものです。林団長がいなければシニアは出来ませんでした。中村副団長がいなければ今日のシニアはありません。そんなシニアを壊したら、もう二度と出来ない。それを知っていたからこそ前谷さんは、不自由な身体を引きずって役員であり続けたのでしょうか。

シニアはもうひとつの人生です。喜びも悲しみもあります。結婚があり、出産があり、転勤、退職、病气、そして最後の別れもあります。前谷さんとの出会いと別れに、いろいろな想いが巡ります。このすばらしい団員がいる限り、シニアは永遠です。感謝を込め、全員でシニアを守ってまいります。

前谷さん、安心してゆっくりお休み下さい。奥様の元で。

合掌

チューニング広場

新委員の紹介

団長 林正輝  
副団長 中村暁生

◆理事◆

石井邦紀 副指揮者・楽譜管理  
柿岡武弘 入団者担当

菊田貴子 楽譜管理

高橋京子 楽譜管理

渡辺順三 楽譜管理・事務局長

◆監事◆

松本良一 楽譜管理  
山田光圀 慶事担当

◆事務局◆

八木田道敏 会計担当  
伊藤英明 H.P.担当

【 財団法人 日本生命財団より「生き生きシニア活動」として顕彰されました 】

贈呈書

北海道シニア吹奏楽団 殿

顕彰内容 生き生きシニア活動顕彰

顕彰金額 金 5万円

頭書のとおり地域貢献活動を顕彰いたします

本顕彰を契機により一層積極的な地域活動を通じて 真に豊かな地域社会の建設に貢献されることを期待いたします

平成21年5月19日

財団法人 日本生命財団



理事長 石橋三洋